

川合新田水源地周辺における 地下水調査業務計画について

1

1) 調査の目的

川合新田水源の豊富な水資源(地下水)を持続的に活用するため、①水源地周辺による地下水の流動など詳細に現状把握し、将来に向け安全性を担保したうえで②効果的な取水方法を検討するもの

2) 調査の方針

R5事業費：40,000千円

【ステップ1】基礎検討

- 県庁付近から犀川までの約7km²において、過去に実施した地質や水文に関する報告書、地形・地質・地下水に関する一般文献、他機関が実施した地下水位などの観測データ等、業務に必要な**既存資料の収集・整理**を行う。
- 地下水は水位(水圧)の高い地点から低い地点へと流動するため、既存井戸を選定し**地下水位の計測**などから大局的な地下水の流れを想定する。

【ステップ2】現状分析

- 川合新田水源地を中心に半径500m程度の範囲において、新規観測孔などで地下水の**水位変動を継続的に計測**し、水源周辺での詳細な地下水流動状況を把握する。
- 有機フッ素化合物の汚染経路を想定し水源への影響を評価する。

【ステップ3】対策検討

R6以降

- 目に見えない地下の状況を可視化したなかで、新規井戸の設置を含めた**最適な取水方法を決定**する。

3) 本年度調査内容の詳細

2

○ 調査対象範囲 (シート3参照)

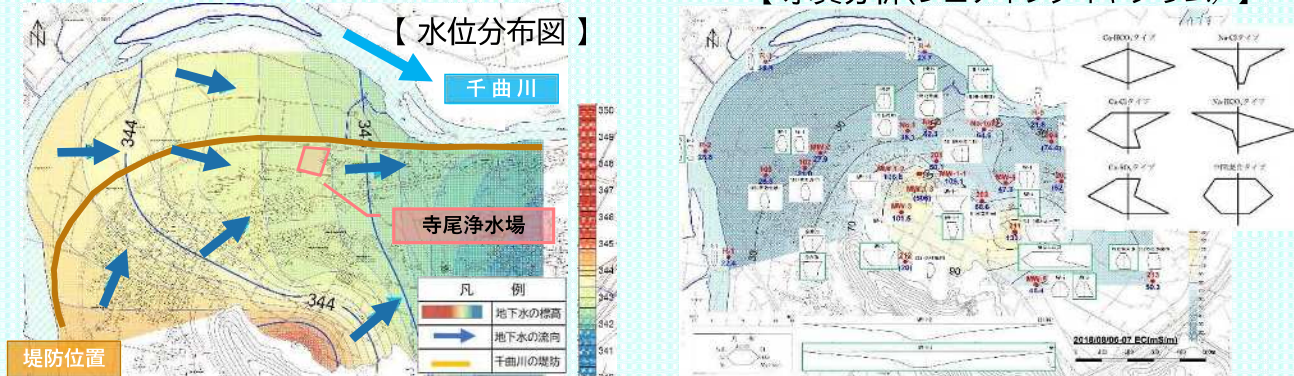
- ステップ1の**基礎検討**については、有識者のアドバイスを受け、北は裾花川の当時の流路元である県庁付近から、南は犀川までの約7km²とする。
- ステップ2の**現状分析**については、有機フッ素化合物の検出状況を調査するため、「PFOS及びPFOAに関する対応の手引き」を基に、水源地を中心に半径500m程度とする。

○ 調査内容

- ステップ1:**基礎検討** ⇒ 既存井戸等を対象に地下水位を測定・整理し、地下水位等高線図を作成する。
⇒ 地下水は涵養源の違いによって異なるタイプを示すため主要イオン8項目の分析などにより流動状況を想定する。
- ステップ2:**現状分析** ⇒ 地下水位を継続観測し、地下水の流動状況を詳細に把握する。
⇒ 検出状況を測定し濃度分布を描き汚染経路を想定する。

○ ステップ1のイメージ図 (寺尾水源地周辺)

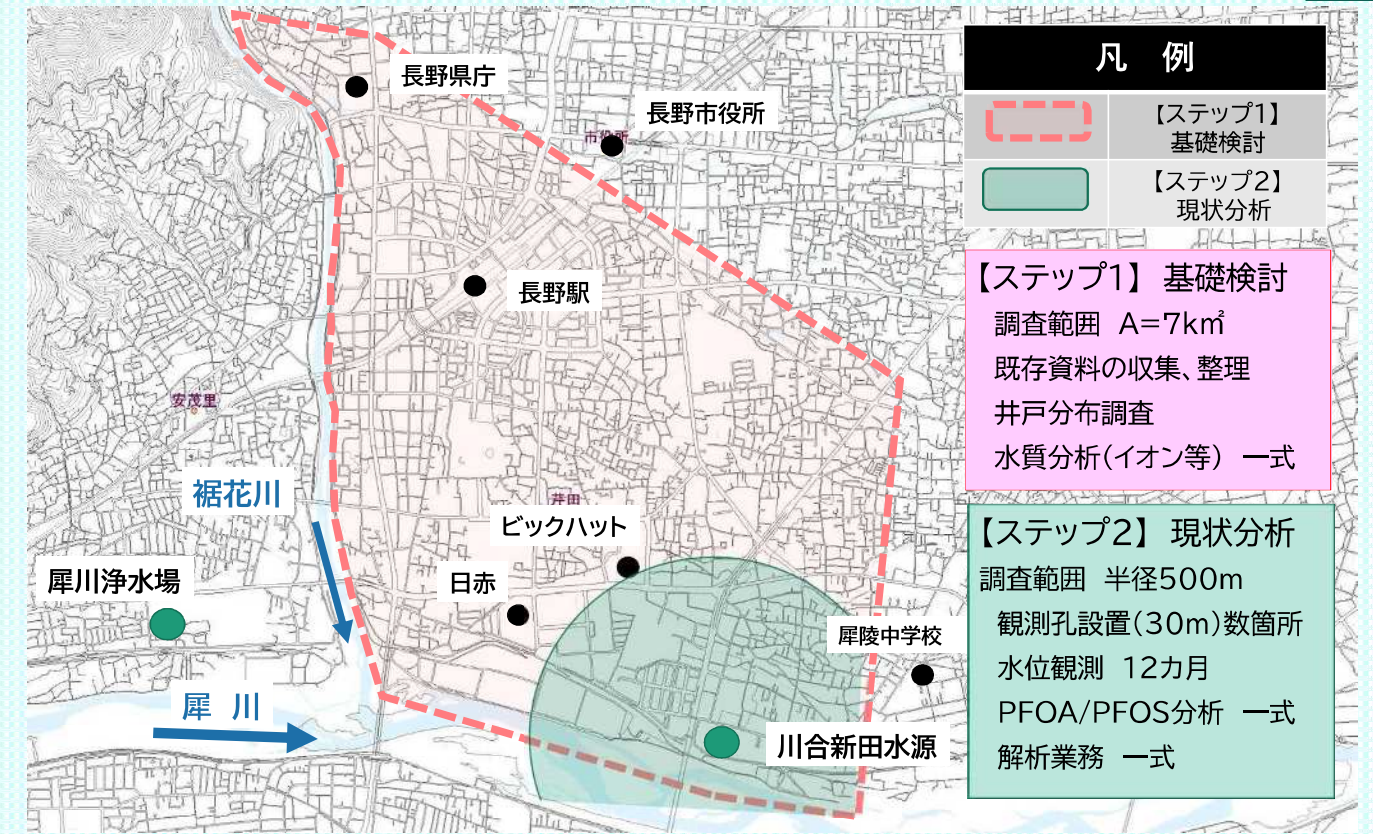
【水質分析(シュティブダイアグラム)】



資料4

4) 調査対象範囲

3



凡例	
	【ステップ1】基礎検討
	【ステップ2】現状分析
【ステップ1】基礎検討 調査範囲 A=7km ² 既存資料の収集、整理 井戸分布調査 水質分析(イオン等) 一式	
【ステップ2】現状分析 調査範囲 半径500m 観測孔設置(30m)数箇所 水位観測 12カ月 PFOA/PFOS分析 一式 解析業務 一式	

5) 今後のスケジュール

4

年度	R5	R6	R7
地下水の状況把握 【ステップ1・2】	6月	9月	
取水方法の検討 【ステップ 3】			
認可変更			
建設移行			

6) 専門家会議の設置

水源地周辺の地下水調査業務の実施に係る計画、調査を行い、効果的な取水方法を検討するに当たり、専門的知識及び意見を反映させるため専門家会議を設置する。

- 構成員は学識経験者とし、委員は5名程度とする。
⇒ 地下水・環境・地下水汚染・水道事業のそれぞれの分野から専門家を選出予定。
- 地元との情報共有を図るためオブザーバーとして地元役員等に依頼する。
- 任期については、地下水調査委託業務契約締結後からステップ3の「取水方法の検討」終了時期までの2年間を予定。